

平成 30 年度 第 3 回 福岡市総合図書館運営審議会 議事録

- 1 日 時：平成 31 年 3 月 19 日（火）10：00～12：00
- 2 場 所：福岡市総合図書館 3 階 第 2 会議室
- 3 出席者：委 員）高橋昇，青木理枝，阿久根健一郎，上村篤子，張浩子，香川純子，  
白根恵子，脇川郁也，黒岩俊哉，青沼美撫子，桐研次郎  
（計 11 名）  
職 員）飯田館長，中川事業管理部長，若山運営課長，宮川図書サービス課長，  
三浦文学・文書課長，八尋映像資料課長 他  
傍聴人）3 名

4 議事録

1. 開 会  
館長挨拶
2. 議 事  
平成 31 年度事業計画について

事務局	<平成 31 年度事業計画について説明>
委 員	貸出・返却サービスの充実について，貸出・返却拠点等の新設検討とあるが，検討だけなのか，それとも実施までできるのか。
事務局	現状は，具体的に設置場所の決定に至ったわけではないので，設置予算が計上できる状況にない。来年度は，再来年度の予算要求を目指して検討を進めていく。
委 員	次回，返却拠点を作る時は併せて貸出拠点もつくってほしい。市民一人当たりの貸出数が政令市で一番低い，本を借りる拠点が少ないのが原因ではないか。NPO 法人が市長や議員にアンケート調査した結果，市議会議員の 2/3 が回答していないなど，議員の関心がないと予算が取れないし，市長も現状で十分だと認識しているようだが，貸出・返却拠点の増設に取り組んでほしい。
事務局	貸出・返却拠点は，図書館の課題の中でも優先課題である。貸出拠点の設置には，人員の確保と場所が必要であり，現在，新設の可能性を探っている。議会に対しては，図書館の課題や新ビジョンの後期計画の取り組みについて第 2 委員会に報告している。貸出・返却拠点は，新ビジョンのテーマとして挙げているので取り組んでいく。
委 員	公民館が各校区にあるので，分室くらいの扱いにできないか。
事務局	公民館での貸出については，他都市の事例はあるが，福岡市とは公民館の設置形態や運営が異なる。本市では，各校区の公民館を貸出拠点として継続的な運営を行うのは運営スタッフの面で課題があり，物流コストについても，現状は 2 3 拠点を 2 ルートで運行しており公民館まで拡大して行うのは難しい。団体貸出において，公民館を拠点とする読書活動団体等と連携しながら，地域における地域活動支援を進めていく。
委 員	中学校では，学校図書館の司書の来校が少なく，年に 18 回か 19 回，月に 1 回か 2 回である。1，2 年生は朝読書をしているが，部活もあり，書店に行く時間もないので，図書室の存在が大きい。本に親しみを持ってもらうため，司書に本との出会いの機会を確保してほしい。
事務局	学校司書の配置は指導部の所管なので，ご意見は後日伝えたい。中学校の学校図書館については，学校図書館支援センターが学校司書や教員から相談を受けているほか，学級文庫への配架に団体貸出を利用している学校もある。
委 員	資料の充実も大事だが，本と人とを結ぶ手渡し役が重要と感じているので，そこを充

	<p>実させてほしい。</p>
委員 事務局	<p>どの程度の留守家庭子ども会が貸出登録しているのか。</p> <p>平成30年1月末現在で、PTAと留守家庭子ども会を含む小学校関係で206団体が登録しており、そのうち留守家庭子ども会は129団体である。</p>
委員 事務局	<p>モデル児童図書リストは見やすく利用しやすいが、読みたくても書架にないと貸出の機会を逃すので、複本を揃えてほしい。</p> <p>モデル児童図書リストの掲載図書は、最低でも2冊は置いている。なお、予約数が多い図書については、各分館が協議しながら複本の検討を進めており、随時冊数を増やしている。</p>
委員	<p>学校図書館支援センターの支援用図書は小学校図書館教育研究委員会でも役立っており、読書リーダー養成講座も子どもたちの育成の手助けになっていると思う。留守家庭子ども会については、最近、入会者が多く施設が足りない状況で、活動が難しくなり、公民館でビデオ鑑賞などを行っているところもある。留守家庭子ども会ではなし会などを行ってほしい。</p>
委員 事務局	<p>リニューアルした美術館との連携事業は予定しているか。</p> <p>現時点で美術館のリニューアルオープンにあたっての連携はないが、総合図書館と隣接する博物館との関連展示は多く行っている。今後とも、他館の展示と合わせた展示を行っていききたい。</p>
委員 事務局	<p>福岡市科学館では、星の成り立ちやエコシステムなどの展示の横にポストカード大の本の紹介文を設置している。例えば、美術館でサルバドール・ダリなどの作品の横に本の紹介カードを設置して、それを図書館に持参すれば借りられるといったことはできないか。</p> <p>参考にしたい。</p>
委員 事務局	<p>レファレンス情報の提供について、ホームページでの提供方法を検討するとあるが、検討ではなく改善と表現しなければやる気を感じられない。時間はかかるが経費はかからないはずなので取り組んでほしい。貸出・返却拠点も同様に、検討ではなく実現の方向に舵をきってほしい。</p> <p>ホームページの改修が来年度の予算要求に間に合っていないので、検討という表現にした。現在、見積依頼を行っているが、平成31年度の予算の範囲内でもどこまで可能か見極めていく。</p>
委員 事務局	<p>公文書で歴史的・文化的価値のあるものとは具体的にどのようなものか。また、資料の館外貸出は本市職員に限り許可するとはどういうことか。</p> <p>歴史的公文書は、平成4年に歴史的公文書に該当する基準を作成し総合図書館に移管、収集している。具体的には、福岡市の変遷、総合計画、制度や機構の新設や、条例や規則の制定に関するもの、大きな事業に関するものなど。これらは、マイクロ撮影を行い2階で閲覧に供している。公文書そのものは、職務上必要な場合に職員のみで貸出を行っている。基本的には総合図書館内で保管している。</p>
委員	<p>文学館に関して、資料の保存や展示が難しいということで講演会も総合図書館で行うようだが、講演会にも耐えられなくなっているのか。天神にある赤煉瓦文化館でお</p>

事務局	<p>こなっている赤煉瓦夜話は人気があり大きな広報の場となっている。文学を大切にしている感じを受けたのですべて総合図書館に引き上げるのは残念である。</p> <p>赤煉瓦文化館は、歴史的な建物で風囲気も良く好評であったがバリアフリー対応できておらず高齢者や障がい者が行きづらい。また、定員が50～60名で希望者が全員受講できない場合もある。基本的には展示や資料のある総合図書館で行うが、講師や内容によっては、他の会場でも行いたい。</p>
委員	<p>やすらぎと交流の場づくりについて、シリウスという大和市中央図書館はよく取り上げられる。福岡市とは比較はできないが多くの人が来ている。保健所と連携して高齢者向けの事業を行ったり閲覧者の傍でヨガ教室が行われたりするなど文化的な取り組みをしている。駅から近いということもあるが図書館の枠を超えてワクワク感を作っている。様々なイベントを考えてはどうか。</p>
事務局	<p>今までの図書館は、図書を中心にどのようなイベントを組むかであり指定管理者が入る前は、図書館の講座は限られていた。指定管理者導入後は、賑わいの場、やすらぎの場を作っていきたいと人を呼び込むためのイベントを行っており図書に関係しないことも行っている。いろんな企画に多くの人が集まってきている。図書館としての殻を破っていかないといけないと感じている。広報については、情報発信が遅く、イベント開催時は情報発信を活発に行っていきたい。</p>
事務局	<p><b>【報告 福岡市総合図書館新ビジョン事業計画の策定について】</b>  &lt;第2回運営審議会からの変更点の説明&gt;</p>
委員	<p>中学生の図書館の利用が少ない。小学生の利用は高いが、中・高校生になると減る。中・高校生に福岡市の図書行政をどうしてほしいか意見を聞いたことがあるか。</p>
事務局	<p>特に意見を聞く機会としては設けてはいないが、利用者の声などで寄せられる図書館についての意見としては、ほとんどが学習室の利用についてのものである。中・高校生については、総合図書館に来てはいるが、学習室で勉強してそのまま本を借りずに帰ることが多いので、ヤングアダルトコーナーの整備等で図書館利用を促している。中学生については、学校図書館支援センターに対して、小学校からの相談や貸出しは多いが、中学校には利用があまり広がっていない状況がある。学校図書館支援センター利用の手引きを作成し、利用の仕方を可視化できないかと考えている。</p>
委員	<p>学習室の利用についてはどの図書館も、昔から課題となっている。中・高生が本に興味を持つようなしなかけを考えてほしい。</p>
委員	<p>中・高校生は、スマートフォンを持つ時期と重なる。例えば学習室の机にブックリストに飛ぶQRコードを貼付するなど、今の子どもにあわせた策も考えてはどうか。</p>

### 3. 閉 会

事業管理部長挨拶／事務連絡